

1. 教育の責任

* 在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族のニーズ、療養環境に応じた在宅における基本的日常生活援助並びに医療援助におけるアセスメントから、生活の質的向上を目指した援助技術と危機管理の具体的展開方法についてロールプレイ等を通して理解する。また、在宅での療養生活を送る上で注視すべき生活および医療上の課題に対する支援と地域包括ケアシステムにおける看護の役割、多職種との連携・協働についても理解する。

2. 教育の理念

* 国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護ができる看護教育の一翼を担っている。

3. 教育の方法

・講義では、教科書の内容にとどまらず、現在の在宅医療におけるさまざまな課題を提示し、医療従事者としてどのような知識や能力が必要なのかを学生自身が気づき、考えられるような講義内容を心掛けた。また、学生同士のロールプレイによる演習内容を多く取り入れ、それぞれの立場（看護師・療養者・家族）に応じた対応を経験することによって、ケア技術の習得だけでなく、「療養者（および家族）の生活を支える」といった視点での看護ケアについて気づき、考えることができるような工夫を行った。さらに、療養者や家族が定住外国人であることも想定し、英語によるロールプレイも行った。多文化共生社会において、今後医療従事者が地域においてどのような役割を果たす必要があるかについて学生自身が考えるきっかけになったと思われる。

・講義と演習を併用することにより、知識と実践を結びつけることができるような教育方法を心掛けた。演習は5名以下の小グループで実践することで、学生一人一人が実践のための十分な時間を確保できるようにし、また、学生同士や学生と教員間において、お互いに意見交換がしやすくなる環境を提供した。さらに、演習の振り返りをレポート課題として課すことにより、学生が自身の実践の振り返りを行うことによって、自身の課題の気づきによりさらなる学びを深めることができるように工夫した。

4. 教育の成果

- * ロールプレイによって学生自身が自身の実践について様々な立場からの振り返りを行うことができていた。
- * 英語によるロールプレイによりグローバル社会における医療従事者のコミュニケーション能力について学ぶことができた。
- * 提出物の提出状況は良好であり、課題レポートにおいても学生自身の新たな気づきや学びについて記載できていた。

5. 改善への努力と今後の目標

* 今後の目標として、実際に在宅医療の現場において活躍されている医療従事者の実践などを聞く機会を設けることによって、今授業で学んでいることが実際の臨床現場でどのように役立ち、活用されているのかを知ることにより、学生の主体的な学びにつなげていく。

【添付資料】

- * 在宅看護援助論 I シラバス
- * 在宅看護援助論演習用資料（ロールプレイ）